

第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】 事業一覧

参考資料

施策						
主要事業						
No.	個別事業	事業内容	前年度の取組	前回提示した今後の方向性	2021年度の取組	今後の方向性
<b>(1) 食と暮らしを支える多様な農業</b>						
1 直売所のさらなる活用						
①	直売所の利用の促進	市HPの活用等情報発信強化	①直売所用のぼり旗配布 ②いこいの森公園、JA直売所、での直売支援実施 ③市HPにて、農業者の直売所情報提供(毎年情報更新)	引き続き①、②、③を実施する。 また、③を基に直売所マップを作成する。	①直売所用のぼり旗配布 ②いこいの森公園、JA直売所、での直売支援実施 ③直売所一覧を作成し、窓口へ備え置きた。また、直売所の情報について、農業者の同意を前提にJA東京みらいの直売所マップへの連携を図った。	引き続き①、②、③を実施する。
②	公共施設等での販売機会の提供	公共施設での販売機会を提供し、市民の利便性や地産地消につなげる	①田無駅で直売実施(保谷直売会) ②駅前(田無・ひばりが丘)でめぐみちゃんマルシェ実施	引き続き駅前での直売を実施し、庁舎内などの公共施設における直売も検討していく。	☆公共施設(スポーツセンター、きらっと)でのマルシェの開催 ☆田無駅にてめぐみちゃんマルシェを実施した。	定期的開催を行う。
2 地産地消の推進						
③	めぐみちゃんメニューの推進	めぐみちゃんメニュー事業の推進	①めぐみちゃんメニュー事業のPR映像の作成 ②市の取り組みと連携したマルシェを開催(事業農業者、商工業者のPRパネルの作成) ③ツイッターを利用した情報発信	引き続き事業PRIに努め、事業者とのマッチングを推進していく。	①ツイッターを利用した情報発信 ☆市内産農産物活用メニュー事業 ☆農業者及び飲食店自らが販売する形式でのマルシェ実施	・農業者と事業者とのマッチングを推進していくことを主眼に置き、そのために必要だと考えられるイベント等を実施していく。 ・左記形式でのマルシェを計画的かつ継続的に実施するよう調整を図る
④	学校給食との連携	栄養士と農業者の意見交換などの支援	①学校栄養士と農業者の連絡会を支援 ②市栄養士が、保育園～中学校まで共通メニューを実施	めぐみちゃんメニュー事業の一環として、学校と連携したイベントを実施する。	①学校栄養士と農業者の連絡会を支援 ②市栄養士が、保育園～中学校まで共通メニューを実施 ☆めぐみちゃんメニュー事業で実施した市内産農産物活用メニュー事業の応募メニューの中から、使用する農産物を季節のものへと変更したものを学校給食で提供 ☆市内産農産物を使用した学校給食の映像を作成	・学校給食の会議に引き続きオブザーバー参加し、必要な支援がないか調査 ・めぐみちゃんメニュー事業との連携を保ちながら、給食メニューへの横展開を継続実施する ・製作した映像を各所で放映し、周知を図る
3 販路の拡大と西東京ブランドの育成						
⑤	めぐみちゃんブランドの普及啓発	めぐみちゃんを活用し、農産物の普及啓発を行う	①めぐみちゃんメニュー事業を通じた広報 ②「市産農産物等活用推進事業費補助金」の実施 ③めぐみちゃんのぼり旗を配布 ④着ぐるみの活用(マルシェ)	引き続き、①～④を実施する。	①めぐみちゃんメニュー事業を通じた広報 ②「市産農産物等活用推進事業費補助金」の実施 ③めぐみちゃんのぼり旗を配布 ④着ぐるみの活用(マルシェ)	引き続き、①～④を実施する。
⑥	地域や商店街との連携	地域や商店街と連携した販路拡大等	①いこいの森公園の指定管理者との連携(ファーマーズマーケット中止) ②多摩六都でのイベントでの連携(未定) ③畑の防災訓練で地域の自治会と連携(中止) ④「景観散策会」に地元商店街から講師派遣などの連携(中止) ⑤高齢者センターきららと連携した「テーブルファーム」の実施(中止)	引き続き、①～⑤を実施し、連携していく。また、めぐみちゃんメニュー事業に参加する飲食店を増やし、地域や商店街と連携した販路拡大を推進する。	①いこいの森公園の指定管理者との連携(ファーマーズマーケットの実施) ②多摩六都でのイベントでの連携(未定) ③畑の防災訓練で地域の自治会と連携(中止) ④「景観散策会」に地元商店街から講師派遣などの連携(中止) ⑤高齢者センターきららと連携した「テーブルファーム」の実施(中止)	引き続き、①～⑤を内容の変更を視野に入れながら実施・連携していく。また、めぐみちゃんメニュー事業に参加する飲食店を増やし、地域や商店街と連携した販路拡大を推進する。
<b>(2) 多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営</b>						
1 若い担い手や女性農業者の育成						
⑦	地元と連携した後継者育成	JAや東京都等と連携した後継者育成	①東京都フレッシュ&Uターンセミナーや指導農業者制度を活用 ②認定農業者の経営改善計画において、家族、後継者を含めた農業経営計画策定を推進。 ③「農業後継者顕彰」事業(農業委員会)	①～③を実施する。	①東京都フレッシュ&Uターンセミナーや指導農業者制度を活用 ②認定農業者の経営改善計画において、家族、後継者を含めた農業経営計画策定を推進。 ③「農業後継者顕彰」事業(農業委員会)	引き続き①～③の実施及び支援を行う。
⑧	農業者の交流機会の創出	若い担い手や女性農業者への情報提供の強化、支援策の検討	①青壮年部の総会出席や事業参加を通じた意見交換 ②農業委員会やJAを通じた女性農業者への情報提供 ③女性委員や若手農業委員との意見交換	①～③を実施する。	①青壮年部の総会出席や事業参加を通じた意見交換 ②農業委員会やJAを通じた女性農業者への情報提供 ③女性委員や若手農業委員との意見交換	引き続き①～③の実施及び支援を行う。
2 援農ボランティアの活用						
⑨	農業者と援農ボランティアのマッチング機会の提供	援農ボランティアと農業者のマッチングを行う	①体験実習農園にて援農ボランティア活動の実施。 ②市報掲載(援農ボランティアを広報周知)	引き続き①及び②を実施する。加えて、農業者への制度周知も回り、援農ボランティアとのマッチング機会の創出を推進する。	①体験実習農園にて援農ボランティア活動の実施。 ②市報掲載(援農ボランティアを広報周知) ③農業者へ援農ボランティアの活用に向けたアンケートを実施しつつ、活用の周知チラシを配付する。	引き続き①から③を実施する。加えて、農業者への制度周知も回り、援農ボランティアとのマッチング機会の創出を推進する。
⑩	援農ボランティアのスキルアップ	「青空塾」修了者(援農ボランティア)のスキルアップを図る	①市内農業者の圃場にてスキルアップのための実習を実施 ②援農ボランティアを対象に講演会や運営連絡会を実施した	①及び②を実施する。	①市内農業者の圃場にてスキルアップのための実習を実施 ②援農ボランティアを対象に講演会や運営連絡会を実施した	①及び②を実施する。
3 効果的な支援による農業経営意欲の促進						
⑪	認定農業者農業経営改善計画への支援	経営改善計画のフォローアップ検討	認定農業者(更新)へ改善計画書の事前配布	認定農業者の要望や関係団体との調整により、目標達成に向け、支援を行う。	認定農業者(更新)へ改善計画書の事前配布	認定事務が円滑に進むよう、事前配布やヒアリングを通して申請者の計画作成の支援を行う。
⑫	新たな支援策の調査・研究	農業者への効果的な支援策検討	①(補助金)JAや農業者との意見交換、要望の反映に向けた調整を行った。 ②(補助金)都市農地保全プロジェクト補助金事業の手続きを開始した ③(補助金)自然災害に対応した支援準備	引き続き、補助金についてJAや農業者との意見交換、要望の反映に向けた調整を行う。	①(補助金)JAや農業者との意見交換、要望の反映に向けた調整を行った。 ②(補助金)都市農地保全プロジェクト補助金事業の手続きを継続 ③(補助金)自然災害に対応した支援準備	引き続き、補助金についてJAや農業者との意見交換、要望の反映に向けた調整を行う。
⑬	営農支援事業の適正運営	JAの営農支援事業	「営農支援事業」をJAにおいて実施、情報交換等	引き続き、「営農支援事業」をJAにおいて実施、情報交換等を行う。	「営農支援事業」をJAにおいて実施、情報交換等	引き続き、「営農支援事業」の周知を行いながら、農地保全に寄与する。

施策						
主要事業						
No.	個別事業	事業内容	前年度の取組	前回提示した今後の方向性	2021年度の取組	今後の方向性
<b>(3) 農地の保全と活用</b>						
<b>1 生産緑地の保全</b>						
14	農地の適正な肥培管理	農業委員会による農地の管理指導	①農地パトロール(農業委員会+都市計画課)、文書による指導実施 ②特定生産緑地の指定に際して、農業委員会が協力 ③苦情対応に農業委員と連携	引き続き①～③に努める。	①農地パトロール(農業委員会+都市計画課)、文書による指導実施 ②特定生産緑地の指定に際して、農業委員会が協力 ③苦情対応に農業委員と連携	引き続き適正な肥培管理が行われるよう農地パトロール等の活動を実施していく
15	生産緑地地区制度への対応	特定生産緑地や生産緑地の再指定等の推進	①特定生産緑地の周知について、JA等と連携 ②特定生産緑地の指定に際して、農業委員会が協力	引き続き、農業委員会、JA、都市計画課と連携して対応していく。	①特定生産緑地の周知について、JA等と連携 ②特定生産緑地の指定に際して、農業委員会が協力	引き続き、農業委員会、JA、都市計画課と連携して対応していく。
16	農地の貸借における仲介の仕組みづくりの支援	貸借円滑化法に基づく貸借への対応を検討	①農業者の要望、情報の集約 ②JAや農業会議等関係機関との連携、他自治体の情報収集を行う	引き続き、農業者の要望、情報の集約し、台帳を作成する。	①農業者の要望、情報の集約 ②JAや農業会議等関係機関との連携、他自治体の情報収集を行う	設立された都市農地有効活用連絡会の活動・運営を通して貸借の促進を図っていく
<b>2 多面的機能の発揮</b>						
17	農業体験・交流型施設の活用	花摘みの丘、蔵の里などの施設を活用した取り組みの推進	①No.19、20、21などの農業学習、イベントの開催 ②実習農園を設置	①引き続き、No.19、20、21などの農業学習、イベントの開催 ②実習農園における市民の農業体験事業を継続	①No.19、20、21などの農業学習、イベントの開催 ②実習農園を設置	①新型コロナウイルス感染症の動向を見つつ、農業体験イベントや実習農園での市民の農業体験事業の開催を検討する
18	災害協力農地の拡大	災害協力農地の拡大を図る	①農業者への情報提供、JAとの連携 (②畑の防災訓練中止のため公共施設を活用してPR予定)	畑の防災訓練の実施	☆都市農地保全支援プロジェクトの事業実施者へ災害時協力農地としての協定締結を慫慂 ※「畑の防災訓練」は、未実施。	令和4年度の当該補助事業実施者にも協定締結を慫慂
<b>(4) 農業を通じた交流</b>						
<b>1 各種イベントの実施</b>						
19	農業景観散策会の実施	農業、農地のある景観を活かした事業の展開	「花摘みの丘」で景観散策会を実施。寄せ植えや写真撮影を通して、農のある風景に触れる取り組みを実施(中止)	「花摘みの丘」で景観散策会を実施。寄せ植えや写真撮影を通して、農のある風景に触れる取り組みを実施(中止)	「花摘みの丘」で景観散策会を実施。寄せ植えや写真撮影を通して、農のある風景に触れる取り組みを実施(中止)	「花摘みの丘」で景観散策会を実施。農のある風景に触れる取り組みを実施
20	市内産農産物活用事業の実施	市内産農産物を活用したイベント実施	①市内農産物を使用した料理教室(消費者センター)開催の支援を行った(中止) ②ふるさと納税に市内産農産物を使用	①市内農産物を使用した料理教室(消費者センター)開催の支援を行った(中止) ②ふるさと納税に市内産農産物を使用	①市内農産物を使用した料理教室(消費者センター)開催の支援を行う(中止) ②ふるさと納税に市内産農産物を使用	①市内農産物を使用した料理教室(消費者センター)開催の支援を実施 ②ふるさと納税に市内産農産物を使用
21	親子で野菜作りにチャレンジの実施	親子参加型イベントの実施	農業実習農園を利用して、親子を対象にした農業体験を実施。(中止)都市農業のPRと農業への理解を促進	農業実習農園を利用して、親子を対象にした農業体験を実施。(中止)都市農業のPRと農業への理解を促進	☆市内農業者の農地で親子を対象にした農業体験を実施する。都市農業のPRと農業への理解を促進(中止)	市内農業者の農地で親子を対象にした農業体験を実施する。
22	農業普及啓発プロジェクトの活用	ファームカー、イメージビデオ、イメージソング等の活用 アスタビジョンを使用した農業PR映像	①イベント(マルシェにおいて、パネルやちらしを利用し、都市農業をPRした) ②ファームカーによる直売の支援、広報活動を行った ③アスタビジョンを活用した農業PR映像の作成	引き続き①～③を実施する。	①イベント(マルシェ)において、パネルやちらしを利用し、都市農業をPRした ②ファームカーによる直売の支援、広報活動を行った ③アスタビジョンを活用した農業PR映像の作成・放映	引き続き①～③を実施する。
23	めぐみちゃんメニューの推進	めぐみちゃんメニュー事業の推進	①めぐみちゃんメニュー事業のPR映像の作成 ②市の取り組みと連携したマルシェを開催(事業農業者、商工業者のPRパネルの作成) ③ツイッターを利用した情報発信	引き続き事業PRに努め、事業者とのマッチングを推進していく。	①市内産農産物を活用した学校給食のPR映像の作成 ②市の取り組みと連携したマルシェを開催(事業農業者、商工業者のPRパネルの作成) ③ツイッターを利用した情報発信	引き続き事業PRに努め、事業者とのマッチングを推進していく。
24	緑のアカデミー事業の実施	緑のアカデミーを通じた植木農業振興	①いこいの森公園にて緑のアカデミーイベントを実施し、谷戸小学校・谷戸第二小学校の児童が参加した ②東京都農業祭にてファームカーを使用し、市内産植木のPRを行った(中止)	①いこいの森公園にて緑のアカデミーイベントを実施し、谷戸小学校・谷戸第二小学校の児童が参加した ②東京都農業祭にてファームカーを使用し、市内産植木のPRを行った(中止)	☆田無市民公園にて緑のアカデミーイベントを実施する(中止) ②東京都農業祭にてファームカーを使用し、市内産植木のPRを行う(中止)	新型コロナウイルス感染症の動向を見つつ、農業体験イベント等の農業体験事業の開催を検討する
<b>2 農商工・産学公連携の推進</b>						
25	農業と異分野との連携促進	飲食や福祉・健康・教育と農業の連携推進	①めぐみちゃんメニュー事業のPR映像の作成 ②市の取り組みと連携したマルシェを開催(事業農業者、商工業者のPRパネルの作成) ③ツイッターを利用した情報発信	引き続き事業PRに努め、事業者とのマッチングを推進していく。	☆市・障害福祉課と連携し、農福連携推進のためのアンケートを実施。また、社会福祉法人等が農業のスキルを身につけるため、農地貸借のスキームを活用できないか検討した。	農地の貸借により、障がい者の方々の農業体験の場を提供できないか、マッチングを推進する。
26	東大生態調和農学機構との連携	東大生態調和農学機構との連携を図る	野菜工場情報会議等に出席	引き続き、会議等に出席し情報交換を行う	連携の内容等について情報収集を行う。	引き続き情報収集を行う
<b>3 市民農園の新しい展開と農業体験農園の推進</b>						
27	市民農園の新しい展開	市民農園の開設支援や利用料の見直し等	①農業者に向けた市民農園開設の広報実施 ②農業者の市民農園開設支援(補助金)のための庁内調整 ③中町市民農園に11区画を増設 ④北町市民農園に7区画を増設	市民農園の農家開設支援を推進していく	☆農業者が開設する市民農園が新規に2園開設予定(農業委員会の審議済) ☆農業者の市民農園開設支援(補助金)のための庁内調整	農業者が開設する市民農園の周知や開設支援を行っていく
28	農業体験農園の推進	体験農園への支援実施	①市報やHPで体験農園を広報 ②開設時の支援制度(補助金)調整	引き続き①及び②を推進していく	①市報やHPで体験農園を広報 ☆新規に2園の農業体験農園が開設される予定(うち1園は市・農業体験農園整備事業費補助金を活用)	引き続き周知を図りながら農業体験の場の提供について検討を加えていく